

< 介護・医療連携推進会議における評価_ > ※公表用

【事業所概要】

法人名	株式会社 太陽メディケアサービス	事業所名	メッツ川崎ヘルパーステーション
所在地	(〒 940-0864) 新潟県長岡市川崎2丁目2478番地1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・一体型のメリットを活かし、介護看護の連携・情報共有を強化、ケアマネ・医療機関などとの連携を強化し、その方の有する能力に応じた日常生活を営むことができるようケアサービスを行う。
- ・法人内研修や取引業者が主催する研修会を活用し、職員へのサービス・制度理解の向上を図っている
- ・ICTの積極活用により、即時性のある情報共有を図っている

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 11 月 25 日	従業者等自己評価 実施人数	(16) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2023 年 2 月 17 日	出席人数(合計)	(9) 人	※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (3 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (0 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (2 人) <input type="checkbox"/> その他 (0 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	オンライン形式や動画視聴など、バックアップ機能があるツールを用いて、全職員に周知を図る機会を作る。 制度理解と理念共有は最低でも年2回以上は機会を設けて周知する。	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内研修で外部講師を積極的に招き、介護技術や理解への向上、自己研鑽を図る機会を年間を通して設けてきた ・管理者、計画作成者が ICT ツール業者が実施する研修会に積極的に参加し、定期巡回サービスの基本知識、オペレーターの役割、計画作成者の役割を学び職員の制度理解の向上の機会をつくった 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念の理解について掲示の仕方など周知の方法について工夫できると良いと思う。 ・新人職員には入職時から教育していき職員によって差がないようにしてほしい ・研修会や勉強会の効果があったようです。継続してください。 ・職全員が同じ支援を同じレベルでできるように取り組めると更に良い。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	日々の記録を時系列的に情報整理し、検討の上計画作成に反映をさせることを継続する。 モニタリングは、利用者ごとに担当ヘルパーをつけて作成をし、責任者が確認しやりとりを活発にする。	毎月の事業所会議で日々の記録から抽出された利用者個々の検討会を設け、計画内容の修正や利用者の変化に応じたサービスを提案した。 事業所会議内でモニタリング向上に向けた研修会を開催した。毎月、各担当のモニタリングが作成された後、担当者がチェックし、修正したうえで再度提出している。結果、個々の内容の向上が見られた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT を活用するとミーティングに参加できない人からもコメントをもらうなど、広く意見や情報交換ができると思う。 ・利用者の解決すべき生活上の課題に対し、介護がどう関わると効果的なのかを検討することが重要です。 ・モニタリング力を向上させるとことを課題として取り組まれて良いと思います。 ・計画作成者から助言や指導をする事で実力は上がると思われます。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	地域の広報誌などで地域情報について調べる。 担当者会議などで多職種との情報交換を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の広報誌で情報を調べることは行ったが活かすことができなかった。 担当者会議には、計画作成者などサービス提供責任者にあたる職員が出席をし、 	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい項目だと思います。 ・地域の連携も機会があれば積極的に行ってほしい。 ・定域に向けた専門職としての意見を発

		1と同様にモニタリング作成にヘルパーが取り組む	情報交換を行った	信することが必要だと思います。 ・緊急な担当者会議は迅速な対応が求められるため利用者にとっても有益だと思う
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28~32)	YouTubeなどのリモートライブ形式による、定期巡回の情報配信を試みる。当社HPにて、動画チャンネルは開設済みである	リモートライブ形式での実施は実行できなかった。 病院2か所でMSW様向けの事業所説明の時間を作っていただき、定期随時の特色などを説明することができた。	・地域包括ケアの中核となるのが定期随時のサービスなので十分に理解できるよう検討する必要があると思う。 ・地域の資源の選択肢となるようになってほしい。 ・地域課題についての提起を期待します。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33~34)		介護と看護による定期随時サービスを行う。また、他職種と協力しながら、利用者、ご家族が安心して暮らせるように支援する	介護と看護間の連携は、一体型のメリットを生かし、日々のミーティングなど行えた。 ご家族の関りが少ない利用者に対して、広報誌を通して日々の生活の様子がわかるような試みを開始した。	・ICTを活用しながらご利用者のニーズを把握し、共有することで計画目標の達成を図っていただける。 ・自サービスだけでなく他のサービスとも連携して目標達成につながると良いと思います。 ・介護、看護と共にお互いに専門性を活かした連携支援ができています。 ・看護師からの指導、助言が得やすい環境なのでもっと活かしてほしい。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
Ⅰ. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	研修や勉強会の効果が出ているように見られる。全職員が同じレベルで支援ができるように取り組む必要がある。	会議や研修会に参加できない職員へ対した、リモート参加や追加カリキュラムを行い、全職員への周知を行う。	
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	モニタリング内容の強化に努め、職員教育を一年を通して行った。多職種に利用者の様子が詳細に伝わり、一定の評価が得られた。	事業所内研修内容の充実と法人内研修への参加で知識を向上させる。 新規入職者の育成と研修を統一し、同一のサービスを提供できるようにする。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	担当者会議に計画作成者と実際に訪問する職員が参加し、より詳細に援助の様子が伝わるように努めた。 地域のサービスの利用には至らなかった。	関係各所との連携の際に、地域についての現状を伺い、情報を把握していく。インフォーマルサービスについて、資源の有効活用を図っていく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)	営業活動を行う中で、地域の関連機関に当事業所の定期巡回の周知不足を感じた。 在宅の方への訪問件数をできる限り増やし、地域に貢献していく必要がある。	事業所や病院へ出向いて説明会を開催し、当事業所の定期巡回の運営について知ってもらう機会をつくっていく。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)	新たな取り組みとして、ご家族へ日々の様子を伝える為、お手紙や通信の配布を開始した。 遠方のご家族から、好評の声が聞かれた。今後も継続していく。 介護・看護について、会議や小ミーティングで意見を出し合い、連携を高めることができた。	「気付きの視点」の向上の為に、定期訪問の時間以外の生活の様子に今以上に目を向けていく。その為の、研修会や業務改善を繰り返す必要がある。	

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します